

概要報告

実施期日	7月28日(火)【午後】
部会名	小学校 総合的な学習の時間部会

テーマ 『市民的行為を目指した問題解決型の授業作り』

提案概要

●実践の概要（4年生での実践）

本校の新しい取組として、クラスごとに行う総合的な学習の時間（以下、クラス総合という）において、「問題解決型の学習展開」を主軸に「市民的行為」に至るような指導計画を作成し、10時間程度実践を行った。当初、子どもたちに何に取り組んでみたいか投げかけたところ、様々な意見が出て困惑したが、教師として「何をやりたいのか?」、「どんなことを子どもと一緒にやってみたいか?」を改めて考える中で、地域の問題を扱うこととし、資料収集を行った。その中で、自転車事故が多いことを知り、「自転車の交通」をテーマとして設定した。子どもたちに、自転車の安全に関する問題について、解決するための多様なアイデアと方法を考えたが、様々な方にお話を伺ったり、児童に意見を聞いたりしながら取り組んでいくうちに、「活動が目的になっている」、「問題を深く追求していない」ことに教師が気づいた。そこで、今一度、自分たちがよく利用する便利な乗り物、でも危険がたくさんある乗り物「自転車」という視点で、自転車の安全に関する問題と利便性を子どもたちとともに見つめ直し、方向転換をすることとした。すると子どもたちは、「地域の人々と自転車とのかかわり」について意識し始め、「自転車の車道通行と左側通行」を巡る様々な問題について、自分たちの力で取り組む活動を考える中で、子どもたちに主体性が生まれてきた。これまで得たたくさんの情報をもとに、チラシ配り、街頭での呼びかけ、看板作り、校内へのお知らせ、幼稚園への啓発活動、ルールブックの作成など様々な活動を考えた。その結果、実現しなかったものもあったが、本単元を通して自分の行動を見直すきっかけになったと同時に、新たな課題を見出すなど、ものの考え方を学ぶ礎になったと考えている。

●成果

- ・児童が市民的行為を計画・実践することで、地域の大人がそれを利用して、外部での活動に展開していったこと。
- ・児童が自分たちの活動が社会に貢献できたと感じ、自己有用感を感じることができたこと。
- ・適切な思考ツールを児童が自ら選んで用いることができるようになったこと。

●課題

- ・地域の願い、行政の願い、警察の願い、子どもたちの願いの焦点を捉えることができなかった。三者懇談（児童、地域、行政）などを開く余裕があればよかった。
- ・学級間、学年間に生まれる「格差」をどのように捉えるか。

質疑概要

Q. 児童にやってみようことを聞いた際、たくさん意見が出たが、最終的に自転車をテーマにしたのはなぜ?

A. 日頃、校長が行うクイズの中に自転車に関する問題があり、児童は興味を持っていた。また、学校に配られた自転車につける「KEEP LEFT」のプレートを見せるなど、方向付けは担任が行った。

Q. 児童は、このテーマに始めから興味を示したのか?

A. 「KEEP LEFT」のプレートを実際につけて自転車が走っている様子を見て、身近に感じたのだと思う。プレートがおしゃれだったのも良かったのでは。

Q. 様々な資料は、どのように集めたのか?

A. 警察・自治会長さん・校外委員会に参加している保護者・都市政策課などから、情報を収集した。また校長が、会合などに参加し、知り合いになれるよう橋渡しをしてくれた。

Q. 自転車事故率が高いということで、校内の自転車事故にあった児童が自分の経験から考えたり、その児童の話聞いて考えたりしていくこともできたと思うが、どうか?

A. 「ルールを考えること」から授業を進めたので、始めは他人事のようになってしまった。その後、自分たちの経験も話してくれる機会ができ、考えを深めることができた。後から考えると、学校内で事故経験に関するアンケートをとってみる方法もあったと思った。

研究協議概要

3、4人ずつ8グループに分かれて、学校・学年・学級での指導計画や授業づくりについて、外部との渉外の大変

さをどう補っていくのかなどについてグループ協議を行った。その後、改めて質疑・応答や感想が挙がった。

- ・ Q. 地域とのかかわりを深めていく中で、スケジュール調整などで苦労があったと思うが、学年で取り組むという話にはならなかったのか？
 - A. 学校として、「クラス総合」に取り組むと決めている。また、クラスごとに違っていても、共通した「つけたい力」に一緒に向かっている。
- ・ Q. 自分たちができていないこと（左側通行）や親もさせていないことを守ってもらうように呼びかけたりするのは難しかったのでは？
 - A. 確かに難しいこともあったが、学習していく中で、左側通行を始めた児童もいるし、親や子どもへの安全への意識付けになったと思う。
- ・ 総合のとらえ方が難しいが、つけさせたい力やどんな事を一緒にやっていきたいのかという想いを担任がしっかり持っていることが大切だと思った。
- ・ この活動を通して、みんな自分の街が好きになったのではないか。そこが良かったと思う。
- ・ 地元の人とつくるようなローカルルールがあっても楽しいかもしれない。ここで終わるともったいないのでクラス→学年→学校と広げていけたらいい。
- ・ 若いうちは、壁にぶつかっても「やってみたいこと」に挑戦する勢いがあるが、経験年数が増えるにつれ、周囲とのバランスなどを優先しがちで、思い切った実践への一歩が踏み出せない。
- ・ Q. 学校の伝統としてやってきたものや引き継いできたものもなかなかやめられなくて、新たなことをはじめる時間をとるのも難しくなっているが、本校ではどうか？
 - A. 教科指導と総合的な学習の時間を通して学びを深めることで時間を生み出そうとしている。つけたい力を学校として明確にすることも、大切なことだと思う。
- ・ Q. 学校の目標である「社会力を育む」という言葉はどこから出てきたのか？
 - A. 校長が学校全体の総合的な学習の目標として掲げているものである。今ある社会を、今より少しでもよくしようとする力のこと。どのクラスも、これを目標に「クラス総合」を行っている。
- ・ Q. 「クラス総合」を学校での取組としてどのように統一しているのか？
 - A. 各クラスの計画や過程をまとめ、印刷して配る。各クラスの計画表を見て、相談できる人などをアドバイスしていく。学年で、進行状況を報告し合う機会を設ける。1年間の計画表などを残して、引き継いでいくといったことを行っている。
- ・ Q. フィードバック、評価などはどのように行っているのか？
 - A. プリント、記録、総合ノート、ポートフォリオなどにまとめ、評価している。

まとめ概要

生きていく能力（課題解決能力）をつけること、主体的に活動に臨むことを目標に、問題解決学習を行なっていった。この実践では、以下のことを丁寧に行ったことが成功につながったと考える。

- ・ 子どもたちの生活している街を題材にすることで、「市民的行為」につなげることができた。
- ・ 教師の得意分野を生かし、自分の脚で教材や資料を探し、さらに子どもたちの興味を引くように、教材にひと手間を加えていった。
- ・ 子どもたちの活動の深まりや学習の目標を振り返り、子どもたちが課題を自分ごととして捉えているのかを問い直しながら、指導計画を変更する柔軟性を持っていた。学習指導要領解説総合的な学習の時間編13ページに示されている「探究的な学習における児童の学習の姿」（スパイラル）を意識した実践したと言える。
- ・ 社会的事象を扱うとき、解決できないような課題に直面することもある。こうしたときに大切なのは、「何が課題であるか」を見抜く力であり、学習指導要領の目標にもある「ものの考え方を身に付ける」ことになるので、学びのプロセスを大切にしたい。
- ・ 目標は、学校の実態に応じてつくり、教科を通して具現化する。そのためには、経験の引き出しをたくさん持っていることが大切で、様々な経験を経ることによって、課題設定もしっかりしてくる。そうなるために、今できることを一生懸命にやり、失敗をおそれずに様々なことに取り組んでいって欲しい。一人ではなく、チームで取り組む方ができることもより大きくなることもある。是非、チーム力もつけていって欲しい。